

11月の安全・衛生・防災管理・活動

— 冬季に備えて安全衛生管理の見直しを —

コロナ
インフル
エンザ



火災予防



車両系機械
自主検査

近年、社会・経済活動が活発化するにつれて、多くの職場では、人手不足や未熟練作業者の就労などで事故や労働災害の発生が危惧されています。また、コロナ禍は未だに治まらず、加えて、冬季に流行するインフルエンザが9月から各地で集団発生しています。

気象的には11月は、特に関東以北の地域では後半に思われ「低温」に見舞われ、車の運転や作業設備等にトラブルが生じる恐れがあります。油断は禁物です。

○11月9日から15日まで「秋季全国火災予防運動」(総務省ほか)が実施されます。全国的に11月は空気の乾燥等による火災の危険が高まります。事業場などでの火災は、放火や電気設備・器具、配線、溶接・溶断などのほか、油ぼろ等からの自然発火が発生しています。

また、化学物質等による出火や火災、工事やメンテナンスの際の出火・火災が後を絶ちません。特段の注意と対策が必要です。

○11月はフォークリフトや車両系建設機械などの「特定自主検査強調月間」です。検査が必要な車両等について、きちんと検査が実施されているか、不備な箇所はないかなど、特にリースの特定車両等については確認が必要です。

○事業場や職場の活動がまだ比較的落ち着いているこの時期に、日常の安全衛生管理・活動を見直して、多忙な年末や新年に向けての態勢作りをしておくことが必要です。

ベテランの慣れた作業に潜む危険

— 油断、作業手順等の省略、自信過剰…… —



職場の先輩は熟練者（ベテラン）として皆の手本になっています。しかし、長年行ってきた作業などに慣れて熟練してくると、つい基本を省略して不安全なこと、無理なことをやってしまいがちです。

長年の自信が過信を生み、思わぬ事故や災害を引き起こすことがあります。

一般的にベテランの作業には、次のような特徴があります。

- ▼ 同じ仕事を長年繰り返してきたために作業動作にムダがない。
- ▼ 仕事の内容を熟知しているので、一歩も二歩も先を読むことができるが早とちりもする。
- ▼ 経験を活かし、上手く作業をこなすが作業手順や安全対策等を省略したりする。
- ▼ 作業の内容を全て記憶しているため未確認のまま作業を行いやすい。
- ▼ 時々自信過剰になり、仕事を甘く見たり、別のことに手を出しやすい、など。
- ▼ ベテランと言われている人は次のような態度と心掛けが肝要です。
- ◎ 経験だけにとらわれず、今の状況に合った判断と、決められた作業手順などの基本を守る。
- ◎ 「安全に絶対はない」という教訓を忘れない。
- ◎ 間違った行為などを先輩が見習う恐れがあるので、一挙手一投足に気を付ける。
- ◎ 体力や平衡感覚などの感覚機能が衰えてきていることを自覚する、など。

職場の消防設備、避難設備を見直そう

— 問題ないか、火災等が発生したとき —



消防設備が正常に作動しなかったり、避難設備が不備だったため火災が広がり、また、多くの犠牲者を出してしまつた事例などが、新聞やテレビなどで報道されています。

私たちの職場でもこのようなことにならないよう、消防署や業者等に任せっきりにしないで自主的に消防設備や避難設備等を見直し、特に

次の事項について点検を行い、問題があれば直ちに防火管理者等と話し合つて是正し、改善を進める必要があります。

▼自動火災報知機は

- ベルが停止の状態になっていないか
- 煙感知器等は正常な状態になっているか
- 仕切りや材料・製品等によつて未警戒部分が出ていないか

▼避難設備は

- 防火シャッターは完全に閉まるか
- 避難通路や階段に障害物を置いていないか
- 避難器具等に損傷等はないか

▼消防設備は

- 消火栓の電源は遮断されていないか
- 止水弁は「開」になっているか
- 消火ホース等は所定の場所にきちんと保管されているか

- 消火器は所定の場所があり、直ちに使用できる状態になっているか

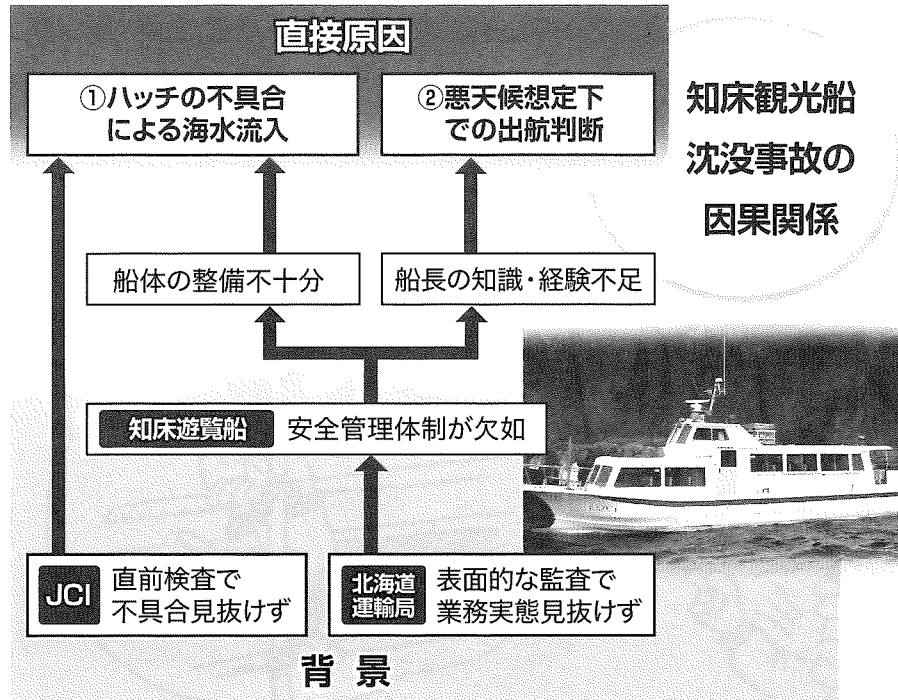
▼緊急用器具等は

- マスクや防火衣等はきちんと管理され、わかりやすく保管されているか、など。

「北海道・知床事故」の最終報告

運行会社の「安全管理欠如」が原因

職場のセーフティネットの再点検を



北海道・知床半島沖で22年4月23日、悪天候下で観光船が沈没して20人が死亡、6人が行方不明になった事故で運輸安全委員会は9月、事故の発生から約1年半かけた調査の最終的な報告書を公表しました。

報告書の要旨は次の通りです。

▼沈没の原因は、船首付近のハッチが確実に閉鎖されないまま出航し、悪天候でふたが開いて浸水したこと。

▼運行会社の安全管理体制の欠如が重大な影響を与えたこと。

▼国や関係機関の監査・検査の実効性にも問題があったこと。

▼事故を未然に防ぐセーフティネット（予期せぬ出来事やあらかじめ予想できる事柄に対して用意された保護策・制度）が機能しなかったこと、などが挙げられています。

また、報告書によると、遊覧船の運行会社はコロナ禍の影響で経費削減を優先し、経験豊富な乗組員や運行管理者らを雇い止めにするなどしていました。

この事故は26名もの死者・行方不明者を出した重大事故のため、社会の耳目を集めました。私たちの事業場や職場にも、この事故で挙げられたような危険な要因が潜んではいないでしょうか。職場のセーフティネットを再点検する必要があります。（資料・引用「東京」23・09・07ほか）